

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

21世紀のカンボジアを支援する会
理事長 根岸 恒次

21世紀のカンボジアを支援する会の概要について

■ 設立の趣旨

カンボジアが平和になりました。しかし、20年におよぶ内戦で失われたものは、はかりしれません。

そこで私たちは、同じアジアに住む同胞たちの窮状に対し、民間の微々たる力ではありますが、特に子どもたちへの教育支援を中心に復興のお手伝いのできればと、2000年1月に本会を設立しました。

支援については、善意の一方的な押し付けにならないよう、カンボジア政府や地方の自治体と常に連携しつつ、現地住民や子どもたちからの切なる要望にのっとり、活動を継続しています。特にあらゆる形の支援が無駄にならないよう、政府や地方の自治体に資金を託すことなく、できる限り現地住民へダイレクトな形で支援を提供しています。

また、物的な支援にとどまることなく、現地の住民や子どもたちとの交流を通じて、日本とカンボジアとの相互理解を深める活動も併せて実施しています。

戦後69年が経ちましたが、わが国も終戦後、世界中から援助物資をいただき、今日の繁栄があります。当時、戦勝国だったカンボジアも、お米を無償援助してくれました。最近では東日本大震災においても、カンボジアの人たちから多大な援助をしていただきました。

困ったときはお互い様、今、支援を必要としているカンボジアの人たち、特に、将来国を担う子

どもたちの教育支援に力を貸していくつもりです。

■ 活動内容について

(1) 次世代を担う子どもたちを学資援助

財政事情がよくない家庭の子どもたち、特に何らかの事由により両親や片親を失った子どもたちは、家計の助けにと、義務教育の範疇である小・中学校すら中途退学しています。

このような子どもたちの教育を支えるため2003年、「クメール教育里親基金」を創設、現

在約350人の子どもたちを教育支援しています。

(2) 児童養護施設「夢ホーム」を運営

「クメール教育里親基金」により、多くの子どもたちが通学できるようになりましたが、特に両親がいない子どもたちは親戚などに身を寄せるなど、肩身の狭い生活を余儀なくされています。

そこで本会は、2009年、こうした子どもたちの受け皿として、カンボジアのコンポンスプー県に児童養護施設「夢ホーム」を設立、現在17人の子どもたちが暮らし、近所の小・中・高校へ通学しています。



教室で学ぶカンボジアの子どもたちは、とても楽しそう



教育支援する里子の家を訪問し、プレゼントを届ける日本の里親さん

(3) 井戸を建設

カンボジアの水不足はかなり深刻です。特に地方の農村には水道がなく、住民たちは雨水を貯めたり、池や川の水を汲んで



井戸の水は、水質検査をしているので、安心して飲むことができます

きて生活水に充てています。場所により井戸もありますが、建設費用が高く、その数は少ないのが実情です。

そこで本会は、2003年からカンボジアで井戸建設を開始し、今までに約250基の井戸を寄贈しました。井戸は小学校の庭や村の広場に掘り、住民や子どもたちの健康生活の増進に役立っています。

(4) 校舎を建設

カンボジアには約6,000校の小学校があるといわれていますが、その多くの小学校で校舎の老朽化が見られます。また、子どもの増加により、小学校の新設を希望する村もあります。

そこで本会は、2003年より主に小学校の校舎を建設し、今までに20校を寄贈しました。

(5) 遊具・スポーツ設備を設置

カンボジアの小学校には、日本の小学校にあるような遊具が足りない状況です。

そこで本会は、2006年から、子どもたちの学校生活に潤いをと、ブランコ・滑り台・サッカーゴールなどを寄贈しています。今までに、32の小学校に、これらを設置しました。

(6) 学用品を配布

カンボジアでは、教科書は貸与されますが、学用品は自分たちで買わないといけません。

そこで本会は、現地でノートやボールペンなどの文具を購入し、必要な小学校に寄贈しています。これらの配布活動は、会の設立当初から実施しています。

(7) 板金加工技術修得の職業訓練

カンボジアの子どもたちの自立支援の一環で、2010年、夢ホーム内に職業訓練棟を建設し、主に板金加工技術修得のための職業訓練を行っています。

(8) 鑄造によるアクセサリー作りの職業訓練

同じく子どもたちの自立支援として、2011年、夢ホーム内に工房を設置し、鑄造によるアクセサリー作りの技術修得のための職業訓練を行っています。



アクセサリー作りの職業訓練は、日本人がボランティアで指導しています

(9) サッカー大会の実施

カンボジアの子どもたちはサッカーが大好きです。そこで本会は、2010年から毎年1回、コンボンスプー県、夢ホーム周辺にある8つの小学校を対象に、サッカー大会を主催しています。将来、カンボジアからメッシやネイマールが輩出されることを夢見ています。

■ 今後の抱負・課題

本会は、2000年1月に設立され、2003年1月には特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受けました。さらに、認定NPO法人を取得すべく、目下準備中です。

わが国を取り巻く社会環境の変化により、また、震災などの災害が頻発したことにより、本会を支える会員の数が減少傾向にあります。本会は、こうした現状に対し、手をこまねいているだけはいけないので、本会の活動趣旨を広くあまねく広報することで、一人でも多くの理解者（会員）を獲得したいと考えています。

近年、カンボジアの経済成長は目覚しく、この10年で大きく変化しました。しかし、その恩恵は地方の貧しい農村には届かず、繁栄する都市部と貧しい農村の格差は広がるばかりです。

本会は、カンボジアへの支援活動を無限に展開することは考えていません。カンボジアが、「支援はもういりません。何とか自力でやります」といえば、いつでも撤退していくつもりです。そうならば、対等な立場での交流活動が中心になることでしょう。やがて、その時がくることを願いつつ、活動しています。